

### ～校友会総会案内～

記念講演会：「サムシンググレート」筑波大学名誉教授 村上和雄先生

合同部会研修会：「そこまで言って校友会」

臨床での関心ごとから卒業生に伝えたいこと… パネリスト：校友会理事

「仕事は人間性が現れる」私たち療法士は医療技術職である前に対象者様に受け入れてもらえる人格を持ち合わせなければなりません。知識で仕事をし、技術で仕事をし、そして人間力で仕事をする。療法士に必要なスキルとして「人間力」が必要と言われて久しいですが、この人間力を学ぶ学問が人間学です。この人間学を学ぶにはどうするか、それは一流の人と出会うことです。校友会の会員・準会員の皆様には一流の人との出会いを提供したいと思えます。今回は、昨年度実施できなかった村上和雄先生の講演を、DVDにて放映させていただきます。

村上和雄先生はDNA解明の世界的権威であり筑波大学名誉教授でもあります。世界に先駆け、高血圧の黒幕である酵素「レニン」の遺伝子解読に成功されました。現在はノーベル賞の有力候補とされていた先生です。しかし、4月13日多くの功績を残し永眠されました。村上先生は、最先端の遺伝子工学の研究から、「感性と遺伝子は繋がっている」ことを究明し遺伝子工学の発展に寄与されてきました。今回放映するDVDは、致知出版社主催の講演会を録画したものです。命の尊さを生命科学と遺伝子工学の理論を踏まえながら実感して頂ければと思います。

また、校友会企画では校友会の理事をパネリストに迎えてディスカッションを行います。COVID19やキャリアアップ、療法士になってよかったこと、失敗談など他では聞けない裏話も含めてディスカッションを行います。ご参加いただいた方からの質問にも本音でお答えします。

今回はwebのみの開催になります。事前申し込みの上ご参加の程、お願い申し上げます。

懸命な努力、自分や仲間を信じる心、そして絶対にやり遂げるという強い志という三つがあれば、必ず天や運は見方をしてくれる

村上和雄 筑波大学名誉教授

サムシング・グレートがどんな存在なのか、具体的なことは私にも分かりません。しかしそういった存在や働きを想定しなければ、小さな細胞の中に膨大な生命の設計図を持ち、これだけ精妙な働きをする生命の世界を当然のこととして受け入れることは、私には到底できないことでした。

それだけに、私は生命科学の現場で研究を続ければ続けるほど、生命の本質は人間の理性や知性だけでは説明できるものではないと感じるようになりました。

進化生物学者の木村資生氏によれば、この宇宙に1個の生命細胞が生まれる確率は、1億円の宝くじが100万回連続で当たるくらい、とんでもなく希少な確率だそうです。となれば、私たちの存在はとんでもなく「有り難い」ものだと言えるでしょう。

さらに言えば、世界の富をすべて集めても、ノーベル賞学者が束になってかかっても、ごく単純な大腸菌1つ元から創れないのが現実なのです。にもかかわらず、私たちの身体には、約37兆個の細胞（最近の研究で明らかになった数字）が存在し、お互いに助け合いながら、喧嘩することなく調和を保って生きている。これは本当に不思議なことです。

それだけに、我われは大自然の不思議な力で生かされているという側面を決して忘れてはならないと思うのです。



プロフィール

村上和雄先生（むらかみ・かずお）——昭和11年奈良県生まれ。38年京都大学大学院博士課程修了。53年筑波大学教授。平成8年日本学士院賞受賞。11年より現職。23年瑞宝中綬章受章。著書に『スイッチ・オンの生き方』『人を幸せにする魂と遺伝子の法則』『君のやる気スイッチをONにする遺伝子の話』（いずれも致知出版社）など多数。

4月13日永眠。